

大学自己点検・評価における2011年度新設部局の「目標」「指標」一覧
(個別的な視点・総合支援センター)

* 目標・指標は大項目(中項目がある場合は中項目)ごとに設定しています。小項目ごとには設定していません。

評価項目(*印は、本学独自項目)			総合支援センター	
大項目	中項目	小項目	目標	指標
0	理念・目的	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	1. 「発達障がいのある学生」に対する修学支援(授業保障)と自立支援を行なう支援プログラムを策定する。	1. 1. プログラムの策定状況 評価基準: A→修学支援、自立支援の両プログラムを策定 B→どちらか一方を策定 C→評価基準なし D→両方とも未策定
		0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。	2. 「聴覚障がいのある学生を支援するための遠隔情報保障システムを新しい学生支援メニューとして導入する。	2. 遠隔情報保障システムの年間運用回数 評価基準: A→5回以上 B→3~4回 C→1~2回 D→0回
		0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	3. 「こころ」や「身体」に困難を抱える学生を支援することについての理解・啓発を促進させる教職員向けプログラムを実施する。	3. 啓発プログラムの実施回数 評価基準: A→2回以上 B→1回 C→評価基準なし D→0回
			【総合支援センターの理念・目的】 学生生活上、こころの問題や身体の問題を抱え悩んでいる学生の支援を行なう。	
4	教育研究組織	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。	1. 学生支援相談(カウンセリング)に指導助言を行なう委員(2名)、キャンパス自立支援(障がい学生支援)に指導助言を行なう委員(3名)を配置する。	1. .委員の配置状況 評価基準: A→5人 B→3~4人 C→1~2人 D→0人
		4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	2. 環境を配慮した面接室(自然採光、防音設備、プライバシー確保、適度な広さ<15㎡以上>)に改善し合計4室確保する。	2. 適切な環境の面接室数 評価基準: A→4室 B→3室 C→1室~2室 D→0室
11	教員・教員組織	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	1. .2012年度までにコーディネータ(期限付契約職員)を2人増員する。	1. コーディネータの計画人員確保の状況 評価基準: A→2人 B→1人 C→評価基準なし D→0人
		11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	2. .2012年度までにカウンセラー(嘱託職員)を2人増員する。	2. カウンセラーの計画人員確保の状況 評価基準: A→2人 B→1人 C→評価基準なし D→0人
		11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	3. カウンセラー、コーディネータの技能や資質向上のため、学会や学外の研修会に一人年1回以上参加する。	3. 学会または研修会に年一回以上参加したカウンセラー、コーディネータの人数 評価基準: A→全員 B→8割以上10割未満の人数 C→6割以上8割未満の人数 D→6割未満の人数
		11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。	4. 学生支援相談室とキャンパス自立支援室で、それぞれ毎月1回『事例検討会』を実施する。	※8割、6割などの人数は、総数に8割もしくは6割を掛け、小数点第1位を四捨五入した人数を基準とする。例えば、総数が11人の場合、11人×0.6=6.6人。6割以上は7人以上、6割未満は7人未満。 4. 各室とも『事例検討会』を実施した月数 評価基準: A→10ヶ月以上 B→7~9ヶ月 C→5~6ヶ月 D→4ヶ月以下
			5. 総合支援センター全構成員による『総合支援センター連絡会』を年10回以上実施する。	5. 『総合支援センター連絡会』の開催回数 評価基準: A→10回以上 B→7~9回 C→5~6回 D→4回以下

大学自己点検・評価における2011年度新設部局の「目標」「指標」一覧
(個別的な視点・日本語教育センター)

* 目標・指標は大項目(中項目がある場合は中項目)ごとに設定しています。小項目ごとには設定していません。

評価項目(*印は、本学独自項目)			日本語教育センター	
大項目	中項目	小項目	目標	指標
0	理念・目的	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	1. 日本語未習者を対象にしたプログラム案を策定する。	1. プログラム案の策定状況 評価基準：A→日本語未習者を対象にしたプログラム案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
		0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。	2. 関学の留学生の実情に即した日本語教育プログラム案を策定する。	2. プログラム案の策定状況 評価基準：A→関学の留学生の実情に即した日本語教育プログラム案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
		0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	3. 質の高い留学生の確保のための方策案を作成する。	3. 方策案の作成状況 評価基準：A→質の高い留学生の確保のための方策案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
		4. 各学部・センター・研究科との連携の方策案を作成する。	4. 連携の方策案の作成状況 評価基準：A→各学部・センター・研究科との連携の方策案を作成する。 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	
【日本語教育センターの理念・目的】 日本語教育センターは、本学の国際化の重要な柱の一つである「多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する」という理念の下、外国人留学生の数の増加や質の多様化という事態に対し、その受け入れの要となる日本語教育を充実・発展させることを目的とする。				
4	教育研究組織	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。	1. 教育研究組織体制の見直し案を作成する。	1. 教育研究組織体制の見直し案の作成状況 評価基準：A→教育研究組織体制の見直し案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
		4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	2. 教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成する。	2. 教育内容の情報を内外に発信する方策案の作成状況 評価基準：A→教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
			3. 優秀な人材育成のための日本語教材・カリキュラム開発に係る教員組織案の策定。	3. 教員組織案の策定状況 評価基準：A→教員組織案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
			4. 日本語教育の質保証に係る日本語教研究活動案を作成する。	4. 日本語教研究活動案の作成状況 評価基準：A→日本語教研究活動案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
11	教員・教員組織	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	1. 日本語教育の全学的体制に係る新たな人事構想案を策定する。	1. 人事構想案の策定状況 評価基準：A→人事構想案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
		11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	2. 常勤講師の充足率を100%にするための見直し案を作成する。	2. 見直し案の作成状況 評価基準：A→見直し案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
		11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	3. 日本語教育センター内の連携・連絡体制案を策定する。	3. 連携・連絡体制案の策定状況 評価基準：A→連携・連絡体制案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定
		11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。	4. 日本語教員の資質・能力向上のための活動案を作成する。	4. 活動案の作成状況 評価基準：A→活動状況案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定